



池田と園芸高校



今月号から、今年で創立 100 周年を迎える「府立園芸高校」の歴史を振り返り、写真などで当時の様子などを紹介していきます。

同校の歴史は大正 4 (1915) 年 1 月 27 日に創立した豊能郡立農林学校までさかのぼります。秦野村尊鉢 (現・井口堂) に校舎を構えていましたが、大阪府立園芸学校に改編された際に、秦野村大字畑 (現・旭丘) へ移転。その後、昭和 16 (1941) 年に園芸学校が神田町 (現・八王寺) に移り、昭和 23 (1948) 年に園芸高校となりました。

現在は大阪で農業を専門とする高校は、園芸高校と堺市にある農芸高校の二校だけです。同校では「フラワーファクトリ科」「環境緑化科」「バイオサイエンス科」の三学科があり、生徒数は約 600 人。それぞれの学科に応じた専門知識や技術の習得と農業を通じた人間力の向上をめざした教育を行っています。

本市とのコラボがスタート!!

園芸高校では、ほぼ毎日午後 1 時～1 時 30 分と同 3 時 30 分～4 時 30 分に、「花」「野菜」「果物」「加工品」などの生産物を販売しています。販売物は季節によって異なり、その時期の旬のものを楽しむことができます。

また、月に 1 回定期市も開催しています。品ぞろえも豊富で、普段は売っていない生産物や加工品も販売するかもしれません。今年度も月末開催を予定しています。詳しい開催日が決まり次第、正門と東門付近に看板を出しますのでご確認ください。



さらに、本市と園芸高校との連携事業の一つとして、五月山総合案内所の一角に月 1 回程度、園芸高校のコーナーを設置します。生産物販売やイベントなどを行う予定ですので、ご期待ください (詳しくは 6 月号で紹介します)。

広報誌が届かなかったら…

『広報いけだ』は毎月 1 回 1 日発行です。発行日の正午までに広報誌が届かない場合は、宅配委託社・㈱リビングプロシード (フリーダイヤル 0120・679・355) へ。



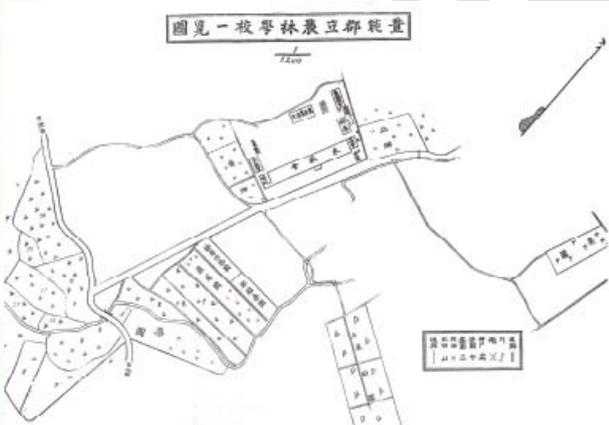


池田と園芸高校

その2



当時の校舎(大正7年)



農林学校配置図

園芸高校の出発点である豊能郡立農林学校は大正3(1914)年2月13日、大正天皇御即位記念事業として豊能郡参事令によって乙種農林学校の設立が建議されたことに始まります。郡会への諮問と設立の答申を経て、同年豊能郡秦野村尊鉢を設立の地として文部大臣へ申請を行い、大正4(1915)年1月27日に認可されました。1学年1学級の編成で修業年限は3年、生徒定員は150人と定められました。同年3月8日に校舎の新築工事に着手し、4月9日には長野県組合立龍東農業学校長・藤重元太郎氏を校長に迎えて、入学試験を実施しました。

仮教室を豊能郡役所議事堂に開いて4月15日から授業を開始。授業料は豊能郡出身者が無料で、郡外生は月1円でした。校舎敷地は、秦野村と箕面有馬電気軌道(現阪急阪神ホールディングス株)から2,500坪余り(約8,265㎡)の提供を受け、農場は郡立果樹試験場の一部を借り受けました。また校舎は府立職工学校の卒業生で組織する模範職工団によって建設されました。この後、大正9(1920)年4月8日には商

業科を併設して甲種学校となり、豊能郡立農商学校と改称。大正12(1923)年4月1日には郡制廃止に伴って大阪府立農商学校となりました。

本市とのコラボ!! 詳細が決定!!

五月山公園総合案内所横で生産物を販売するイベントを6月13日(土)午前10時から実施します。野菜や花壇苗、ジャムなどを販売する予定です。たくさんの方のご来場をお待ちしています。また、園芸高校では中学生向けに学校説明会などを企画しています。興味のある中学生や保護者の方はホームページまたは直接同校に申し込んでください。

イベント	場所・日時
第1回 五月山公園販売	五月山公園総合案内所横 6月13日(土)午前10時
6月定期市	園芸高校 6月29日(月)午後2時30分
事務室での販売	園芸高校 月～金曜日のほぼ毎日、 午後1時～1時30分 ※売り切れ次第終了。

広報誌が届かなかったら…

『広報いけだ』は毎月1回1日発行です。発行日の正午までに広報誌が届かない場合は、宅配委託社・(株)リビングプロシード(フリーダイヤル0120-679-355)へ。

園芸高校やイベントなどの詳細は同校(☎761・8830、🌐<http://www.osaka-c.ed.jp/engei/>)にお問い合わせください。



古紙配合率70%再生紙を使用しています。



池田と園芸高校

～その③・園芸学校秦野校舎～

大正末期近代工業の発展とともに大阪市の人口は著しく膨張し、人口200万人を超える巨大都市となりました。北摂地域を含む周辺部は近郊農村の色合いを濃くし、米麦一辺倒の生産から野菜や果樹などの生産が高まり、園芸の技術や知識が求められるようになります。

当時、大阪府立農学校に園芸科が設置されていましたが、これを独立させて旧農林校舎を生徒ごと秦野村大字畑に移して、大正13(1924)年2月18日に園芸学校が開校しました。この秦野村への移転は、農林学校の敷地が阪急(当時は阪神急行電鉄)の所有であったため、これを買取ることができなかったからです。なお、園芸学校としては東京府立園芸学校に次いで日本で二番目に開校したものです。

創立当初は農場1町歩(9,917㎡)、校舎2棟、温室30坪、職員は校長以下8人で誠に小規模でした。農場にはモモ・ブドウ・イチジクが少々植えられ、3頭の豚が飼われているばかりで、第1回卒業生(第2回卒業生までは農商・農学校から移籍した生徒)は27人でした。



当時の学校全図(昭和7年作成)



創立10周年記念式(昭和10年10月)

壁画製作と北豊島小学校の栽培体験学習

創立100周年に向け、現在、美術部員と1年生有志で、国道171号沿いの園芸高校の壁を利用した壁画製作に取り組んでいます(7月中の完成をめざしています)。

また、毎年北豊島小学校の児童がサツマイモおよびジャガイモの栽培を体験。今年は2月9日にジャガイモの種イモの植え付けと、5月29日にサツマイモ苗の植え付けをしました。今後、月に1回の除草などを行い、ジャガイモは6月中旬ごろ、サツマイモは10月中旬ごろに収穫をする予定です。

生産物販売	場所・日時
池田市コラボ販売	市役所正面玄関前 7月11日(土)午前10時
7月定期市	園芸高校 7月27日(月)午後2時30分
事務室での販売	園芸高校 月～金曜日のほぼ毎日、 午後1時～1時30分 ※売り切れ次第終了。

広報誌が届かなかったら…

『広報いけだ』は毎月1回1日発行です。発行日の正午までに広報誌が届かない場合は、宅配委託社・(株)リビングプロシード(フリーダイヤル0120・679・355)へ。

園芸高校やイベントなどの詳細は同校(☎761・8830、🌐<http://www.osaka-c.ed.jp/engei/>)にお問い合わせください。



古紙配合率70%再生紙を使用しています。



池田と園芸高校

～その4・園芸学校秦野校舎②～

昭和5、6年が過ぎたあたりから園芸学校は飛躍的に充実し、施設面では花壇・温室の整備、教育活動の分野では校外実習や見学研修会、各地区卒業生を集めての研究会などが毎日のように行われ、卒業生も母校を大いに支援しました。また同校職員が雑誌、ラジオ放送の講師として引っ張り出されることもありました。

当時から秦野校舎への通学には多くの生徒が石橋まで電車を利用していましたが、中には神崎川や伊丹、西宮、尼崎など遠方から自転車で通学する人もいました。園芸学校創立時の通学路は、石橋から上り坂が続くうえに日陰を作るようなものありませんでした。そのため、一回生のときから街路樹を作るべくプラタナスの植栽が計画されました。



大阪市内でのせん定作業(大正13年頃)



昭和12年頃の学校周辺



大正14年頃(写真左)と、昭和8年頃(同右)の校門付近の景観



池田市コラボ販売



7月11日、市役所正面玄関前で即売会が開催されました。当日は、園芸高校で作られた野菜や果物、ジャムなどの加工品、フラワーアレンジ装飾品、バイオインテリアが安く購入できるとあって販売開始前から多くの人が列をつくりました。生徒たちは、商品の説明をするなど、積極的に販売していたため、すぐに完売しました。

※次回の即売会は9月の予定です。

広報誌が届かなかったら…

『広報いけだ』は毎月1回1日発行です。発行日の正午までに広報誌が届かない場合は、宅配委託社・㈱リビングプロシード(フリーダイヤル0120・679・355)へ。

園芸高校やイベントなどの詳細は同校(☎761・8830、<http://www.osaka-c.ed.jp/engei/>)にお問い合わせください。



古紙配合率70%再生紙を使用しています。



池田と園芸高校

～その5・園芸学校神田校舎～

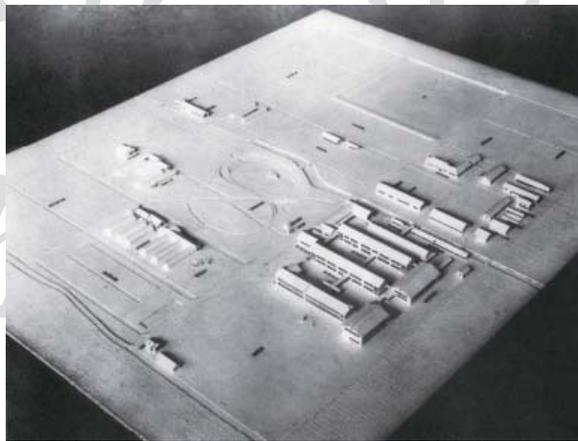
昭和10(1935)年11月19日、東京府立園芸学校から仙田清吾校長を迎え、園芸学校は本格的な建設期に入りました。校歌制定や学校の拡張、全国初の5年制園芸科の併設など世の脚光



建設が進む神田学舎(昭和12年ごろ)

を浴び、「西に府立園芸あり」と知られるようになりました。同12(1937)年には西日本園芸センターをめざし、池田町神田へ大移築が始まりました。敷地面積は3万6,000坪(約118,800㎡)、教育の主眼となる農場は京都帝大農林工学教室へ設計を委嘱し、職員や生徒一丸となって夏・冬休みなしで造成を進めました。

この計画では最初秦野校舎周辺での拡張を企画していましたが、仙田校長が主張する12町歩の広さが確保できず神田へ移転することとなったのです。それでも用地の取得は困難と予想されていましたが、当時の池田町の尽力によりわずか半年ほどで必要な用地を確保することができました。



神田学舎の模型



造成に励む生徒たち

同16(1941)年3月1日、神田校舎がほぼ完成したのを受けて学校を正式に移転しました。移転工事はその後も順次行われ、同17(1942)年11月7日に移築竣工落成式典を挙げて池田町神田への大移築は完了となりました。

夫婦池テニスコートに新しい看板

園芸高校美術部員がデザインした絵が、夫婦池テニスコートの新しい看板に使われることになりました。池田市のイメージキャラクター・ふくまるくんをモチーフにしたもので、今年中に完成する予定です。また、今月の販売イベントは右表の通りです。ぜひご参加ください。



イベント

第2回 生産物販売
(五月山公園職員
による販売)

場所・日時

五月山体育館
9月26日(土)午前10時

広報誌が届かなかったら…

『広報いけだ』は毎月1回1日発行です。発行日の正午までに広報誌が届かない場合は、宅配委託社・(株)リビングプロシード(フリーダイヤル0120・679・355)へ。

園芸高校やイベントなどの詳細は同校(☎761・8830、🌐<http://www.osaka-c.ed.jp/engei/>)にお問い合わせください。



古紙配合率70%再生紙を使用しています。



池田と園芸高校

～その6・園芸高校の発足と4分校の設置～

昭和23(1948)年4月1日に新制高校としての園芸高校が発足、このときは園芸科のみでした。三年制教育課程の設置や生徒自治会、教職員組合の結成、PTAの設立など新しい取り組みが矢継ぎ早に実施されました。昭和26(1951)年10月には、第2回目となるFFJ(Future Farmers of Japan、日本学校農業クラブ連盟の略称)の全国大会が開催。大会2日目には池田市公会堂で研究発表会も行っています。そして、平成28年10月には第67回の全国大会が再びこの地で開催されることが決まっています。



昭和29年ごろの園芸高校

園芸高校の発足後、次々と分校も設置されました。昭和23(1948)年8月1日付で能勢農林学校を改めて能勢分校に、同10月15日に西能勢中学校の一部を借りて西能勢分校を、同じく現在の田尻小学校がある場所に女子のみの定時制高校として田尻分校が設置されました。



公会堂で研究発表会も

これらの分校は、昭和29(1954)年4月1日に統合されて大阪府立能勢高等学校として独立。また、昭和23(1948)年10月15日には定時制の東能勢分校を設置し、昭和26(1951)年4月1日には同校に全日制農業科が開設しました。この東能勢分校も昭和51(1976)年4月1日に大阪府立城山高等学校として独立しています。



東能勢分校増改築及15周年記念品

大阪府立園芸高等学校 創立記念祭

創立100周年を迎えた本年度も恒例の創立記念祭を開催します。当日は一般公開もしていますので、是非ご来場ください。

とき=11月8日(日)午前10時～午後3時 ところ=園芸高校 内容=研究発表、学校庭園の開放、模擬店、バザーなど。〈生産物の販売〉野菜、果物、切花、花壇苗、観葉植物、フラワーアレンジメント、みそ、ジャム、菓子類など〈生徒作品の展示〉菊花展示、花壇展示など

※校内に車での入場はできませんので、車での来場はご遠慮ください。



広報誌が届かなかったら…

『広報いけだ』は毎月1回1日発行です。発行日の正午までに広報誌が届かない場合は、宅配委託社・(株)リビングプロシード(フリーダイヤル0120・679・355)へ。

園芸高校やイベントなどの詳細は同校(☎761・8830、🌐<http://www.osaka-c.ed.jp/engei/>)にお問い合わせください。



古紙配合率70%再生紙を使用しています。



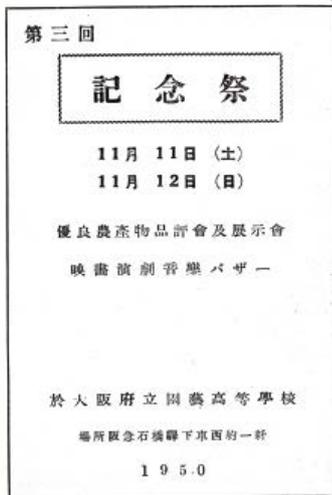
池田と園芸高校

～その7・昭和30年代の校風と創立記念祭～

昭和29(1954)年10月に創立30周年記念式典を挙行了した園芸高校ですが、その翌年には初めて女子生徒が入学し、バイオサイエンス科へとつながる農芸化学コース(昭和31年度に農芸化学科となる)もこのときに作られました。同38(1963)年には造園科(現環境緑化科)が設置され、園芸学校からの校風が変化していき、今ある園芸高校の基礎となりました。

また毎年、園芸高校では11月の第1または第2日曜日に「創立記念祭」という大きなイベントを開催しています。これは、園芸学校の品評会から続く伝統ある行事で、当日は校内を一般開放して多くの来場者を迎えています。

この創立記念祭は過去に開催日を二日または三日間(一般公開は二日)に設定した時期があり、来場者が2万人の時も珍しくありませんでした。



昭和25年、記念祭プログラム



平成17年、創立90周年記念祭ポスター



昭和33年、石橋商店街(記念祭のポスターが掲示)

全国大会まで1年をきりました

第67回日本学校農業クラブ全国大会大阪大会の開催までいよいよ1年をきりました。園芸高校は、平板測量競技会、農業鑑定競技会、クラブ員代表者会議の運営を担当します。



イベント	場所・日時
創立記念祭	園芸高校 11月8日(日)午前10時～午後3時
農業祭	池田駅前公園 11月15日(日)午前10時～午後3時
農産物販売	五月山総合案内所前 11月28日(土)午前10時 ※売り切れ次第終了。

広報誌が届かなかったら…

『広報いけだ』は毎月1回1日発行です。発行日の正午までに広報誌が届かない場合は、宅配委託社・(株)リビングプロシード(フリーダイヤル0120・679・355)へ。

園芸高校やイベントなどの詳細は同校(☎761・8830、🌐http://www.osaka-c.ed.jp/engei/)にお問い合わせください。



古紙配合率70%再生紙を使用しています。



池田と園芸高校

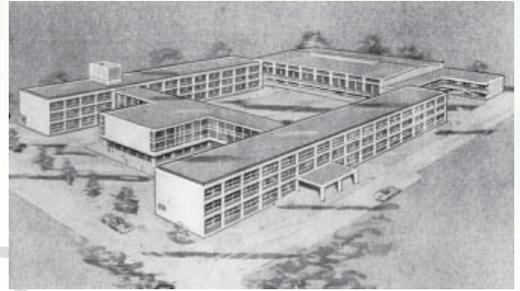
～その8・昭和40年代の様子～

昭和40（1965）年に一年遅れの創立40周年を祝った園芸高校でしたが、昭和37年の大阪都市計画地方審議会に端を発する道路問題を抱えていたため、それが昭和41年に本格化することになりました。

この問題に対し、園芸高校の生徒やPTA、教職員だけでなく、同窓会や周辺自治会も道路建設に反対の意向を示しました。対抗策として路線変更や道路の半地下・地下方式などの案も提出されましたが、昭和45年2月に当初の計画どおり道路が完成することになります。

ただし、その際の補償措置として道路南側に高さ2.8mの塀と緑地帯、北側に高さ2mの塀を作ることで、代替地の確保（現果樹園の北進）と、校舎の全面改修などがなされました。昭和48年6月には空調工事を含んだ校舎の改修工事が完了し、これを受けて同年11月に創立60周年記念式典が挙行されました。

※園芸高校の起源が園芸学校から農林学校に移ったため、創立50周年は存在しません。



40周年誌に掲載された改築予想図



道路工事による補償措置でなされた建設中の本館（写真左）と取り壊し中の旧本館（同右）

夫婦池公園テニスコートに新しい看板を設置

11月8日に創立記念祭を実施したところ、雨天にもかかわらず、延べ約3,300人の来場があり、生徒たちの日頃の学習の成果を多くの方に披露できました。また、本年10月に開催される「農業クラブ全国大会大阪大会」へ29,203円の募金がありましたので、あわせてお礼申し上げます。

さて、園芸高校の美術部員がデザインした夫婦池公園テニスコートの新しい看板が12月7日に完成しました。ぜひご覧ください。



広報誌が届かなかったら…

『広報いけだ』は毎月1回1日発行です。発行日の正午までに広報誌が届かない場合は、宅配委託社・㈱リビングプロシード（フリーダイヤル0120-679-355）へ。

園芸高校やイベントなどの詳細は同校（☎761・8830、<http://www.osaka-c.ed.jp/engei/>）にお問い合わせください。



古紙配合率70%再生紙を使用しています。



池田と園芸高校

～その9・学科改編～

昭和62(1987)年、当時の園芸高校には園芸科・造園科・農芸化学科の3学科があり、その内造園科と農芸化学科の2学科が改編されることが決まりました。この時、園芸科の学科改編は見送られました。改編後の学科名称やカリキュラムの編成、特別な予算措置など、状況が慌ただしく変化する中、同年4月に環境緑化科と微生物技術科が誕生しました。

その2年後の平成元(1989)年には、園芸科は新たにフラワーファクトリー科として改編することになります。フラワーファクトリー科は、従来の野菜・果樹などの「食の分野」から草花やそのデザインを中心とした「鑑賞の分野」を重視したものをめざし、バイオテクノロジーについてはランの培養などを取り入れました。また、教育委員会にも園芸デザイン分野の重要性を理解していただくことで、新しい施設として無菌培養によるランを育成する温室と草花の装飾学習ができる展示室を併設した「フラワースタディーハウス」の設置が決まりました。



フラワースタディーハウスでのディスプレイ実習



フラワースタディーハウス(正面)

バイオ研究部 全国入選1等に輝く

中学生、高校生を対象とした科学のコンテスト「第59回日本学生科学賞」で園芸高校バイオ研究部の「カビ酵素による海藻の糖化」が全国入選1等に選ばれました。これを受け昨年12月には東京の日本科学未来館未来館ホールで開かれた授賞式にも参加。現在同部は、さらなる発見のため調査研究を行っており、今後の成果が期待されます。



研究内容を発表する同研究部

広報誌が届かなかったら…

『広報いけだ』は毎月1回1日発行です。発行日の正午までに広報誌が届かない場合は、宅配委託社・㈱リビングプロシード(フリーダイヤル0120・679・355)へ。

園芸高校やイベントなどの詳細は同校(☎761・8830、<http://www.osaka-c.ed.jp/engei/>)にお問い合わせください。



古紙配合率70%再生紙を使用しています。



池田と園芸高校

～その10・園芸高校のSSH研究指定校事業～

園芸高校は、24（2013）年度からの5年間、文部科学省から科学技術系人材育成を目標とするSSH（スーパーサイエンスハイスクール）研究指定校に選ばれました。また、農業高校が同事業の研究指定校となるのは、全国でも園芸高校が初めてでした。同年に岐阜県立岐阜農林高等学校や広島県立西条農業高等学校の2校も研究指定を受けていますが、園芸高校は23年度内に指定を受けるために早い段階から文部科学省に申請を行っており、その証拠に全国で最も早く同事業への参加を表明していました。



オーストラリアでの海外研修

現在、園芸高校バイオサイエンス科がSSH事業の中核を担っています。これは同科の教育課程や諸活動が長い期間を掛けて整備された全国屈指の理化学機器や食品化学技術・生命科学技術に支えられているからです。しかし、専門部の科学的な探究活動や物理科目履修を中心に、同校環境緑化科やフラワーファクトリ科からも多くの生徒と教員がSSH事業に取り組んでいます。



企業連携研修

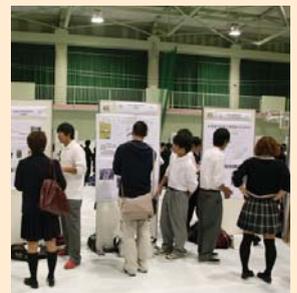


SSH研究発表会横浜

SSH（スーパーサイエンスハイスクール）

SSHの指定校となるには文部科学省に応募し採択される必要があり、同省よりSSH指定を受けた学校には活動推進に必要な支援を国から受けることができます。

具体的には物品購入・研修・講師費用などの支払いを代理で行ってくれるほか、発表会の企画運営・情報提供を実施しSSHの活動をサポートしています。SSHでは、海外の理数重点校との連携のほか、生徒の研究・発表会などで得た成果をほかの学校に普及するなど、地域に貢献しています。



広報誌が届かなかったら…

『広報いけだ』は毎月1回1日発行です。発行日の正午までに広報誌が届かない場合は、宅配委託社・㈱リビングプロシード（フリーダイヤル0120・679・355）へ。

園芸高校やイベントなどの詳細は同校（☎761・8830、🌐<http://www.osaka-c.ed.jp/engei/>）にお問い合わせください。



古紙配合率70%再生紙を使用しています。



池田と園芸高校

～最終回・創立百周年記念式典～



園芸高校は、27年11月21日に創立百周年の記念式典を市民文化会館のアゼリアホールで挙行了しました。式典には多くの来賓が出席する中、卒業生や在校生、PTA、学校関係者らによって厳かに執り行われました。

式典終了後には園芸高校の卒業生で辻調理師専門学校理事・畑耕一郎さんによる大阪や日本の食とその歴史や文化についての記念講演や28年度から採用する制服のお披露目ファッションショーなどを開催。また、SSH生徒研究とプロジェクト活動の報告会も行われ、未来に向かって新しい歴史を刻む印象深い記念行事となりました。



園芸高校校長からのメッセージ



一年間、貴重な広報誌の一面をお借りし、園芸高校の100年の歩みを掲載いただき感謝申し上げます。

地元にある農業の専門高校として、生徒、教職員全員で頑張っておりまして、今後とも皆さまの応援をよろしくお願いいたします。

大阪府立園芸高等学校校長・北之防勉

広報誌が届かなかったら…

『広報いけだ』は毎月1回1日発行です。発行日の正午までに広報誌が届かない場合は、宅配委託社・(株)リビングプロシード（フリーダイヤル0120・679・355）へ。

園芸高校やイベントなどの詳細は同校（☎761・8830、<http://www.osaka-c.ed.jp/engei/>）にお問い合わせください。



古紙配合率70%再生紙を使用しています。